

国分寺市障害者基幹相談支援センター・国分寺市ケアマネジャー連絡会 共催

平成29年度 第2回相談支援スキルアップ研修会 報告書

「障害福祉から介護保険へ～情報共有のズレをなくそう」

開催日時	平成29年9月29日（金） 午後2時半～午後5時	場 所	ひかりプラザ 203・204号室
		主催 （共催）	国分寺市障害者基幹相談支援センター 国分寺市ケアマネジャー連絡会

講師：沖倉 智美氏（大正大学人間学部社会福祉学科 教授）

参加者：50名

〈参加者内訳〉

（順不同）

居宅介護支援事業所 （ケアマネジャー）	29名	至誠ケアセンターもとまち 老人介護支援センターたんぽぽ 健生会ケアプランセンター国分寺 さわやかライフ 介護相談センターやわらぎ・国分寺 ソラスト国分寺 エンジョイライフ・ケア 居宅介護支援センターにしき苑 浴光介護支援サービス 東京サポートセンター ケアサポートポケット 国分寺市健康福祉サービス協会 ケアプラン事業所えにし ほたるケアプランセンター 三多摩医療生活協同組合国分寺診療所 さくらんぼ 訪問看護ステーション国立メディカルケア ケア21 国分寺
地域包括支援センター	8名	国分寺地域包括支援センター もとまち こいがくぼ ほんだ ひかり ひよし なみき
相談支援事業者 （相談支援専門員）	5名	相談支援事業所のぞみ 地域活動支援センター虹 地域生活支援センタープラッツ 地域活動支援センターつばさ
行政	4名	国分寺市障害福祉課 国分寺市高齢福祉課
基幹相談支援センター	4名	国分寺市障害者基幹相談支援センター
参加者	50名	

1. 研修会目的

- ◆ 障害福祉と介護保険の制度の違いを知り、それぞれの立場の違いを理解する。
- ◆ 立場は違っても、利用者の生活を支えるという視点は同じであることを理解する。
- ◆ 生活の見通しをもった形で介護保険のサービス調整をするために、必要な情報を共有し理解する。
- ◆ 研修を通じて制度を越えた顔の見える関係をつくり、実際の支援に活かせる関係性の土台をつくる。

2. 研修会に向けた準備

〈研修会開催までの準備 打ち合わせ等の経過〉

国分寺市ケアマネジャー連絡会と国分寺市障害者基幹相談支援センターの研修担当者を中心に、研修会開催に向けた打ち合わせを合計 10 回行った。打ち合わせ及びそれに伴う連絡調整を頻回に重ねる中で、担当者間での双方の制度理解を深めながら具体的な課題の洗い出しを行い、現在の取り組みと今後の方向性について共有・検討した過程をそのまま活かした研修企画を行った。以下、その経過と内容を記す。

回	日付・時間	内容	参加人数・参加者
1	4月19日 10時～ 11時半	研修担当者打ち合わせ① ・研修会の目的と企画概要の検討し、グループワークを主とした研修会の構成の方向性を決定。 ・障害福祉と介護保険の連携時の「情報共有のズレ」について意見交換及び検討。制度の違いへの理解。	5名 ケアマネジャー連絡会 3 名 (以下、ケアマネ連絡会) 基幹相談支援センター 2 名 (以下、基幹)
2	5月11日 15時～17時	研修担当者打ち合わせ② ・制度移行期における 6 ヶ月間のサービス調整期間をグループワークのテーマとすることに決定。 ・架空事例の検討と討議のポイントの検討。 ・6 ヶ月間の調整期間の流れの説明を行政に依頼。	5 名 ケアマネ連絡会 3 名 基幹 2 名
3	6月1日 15時～ 16時半	研修担当者打ち合わせ③ ・6 ヶ月間のサービス調整期間についての情報共有及び、移行期における課題と取り組みの現状について検討。 ・グループワークを想定した架空事例の検討。	5 名 ケアマネ連絡会 3 名 基幹 2 名
4	6月8日 15時～17時	研修担当者打ち合わせ④ ・グループワークを想定した架空事例の検討。 ⇒移行ケースを経験したことのない相談支援専門員やケアマネジャーも共通で検討できる事例設定が決定できず、各自資料収集及び検討継続することになる。	5 名 ケアマネ連絡会 3 名 基幹 2 名
5	6月30日 10時～12時	研修講師と研修担当者合同打ち合わせ① ・これまでの打ち合わせ経過と連携の現状を講師に説明する中で、企画全体の見直しの必要を認識。 ① 事例を基にしたグループワークでの検討は、経験や制度への認識がバラバラな現状がある中では困難。 ⇒各立場の代表者によるグループワークのデモンストレーションにて、制度の違いの理解や現状の課題への取り組みについて情報共有をはかる形に変更。 ② グループワークは、デモンストレーションを見た上で、各参加者の現状や感想を語り合う形に変更。 ③ 研修を有意義にするため、ケアマネジャーの参加枠に制限(各事業所より 1 名)を設けることを決定。	8 名 研修講師(沖倉智美先生) 高齢福祉課 1 名 障害福祉課 1 名 ケアマネ連絡会 3 名 基幹 2 名

6	7月21日 13時～ 14時半	グループワークデモンストレーション打ち合わせ① ・デモンストレーションのシナリオ作成に向けた検討。 ⇒・双方の制度の違いの理解と移行期における課題の共有 ・各立場からの課題出しと現状の対応の共有と検討。 ・移行期における連携方法について検討。	8名 高齢福祉課 1名 障害福祉課 1名 地域包括支援センター1名 ケアマネ連絡会 3名・ 基幹 2名
7	8月8日 13時～15時	研修担当者打ち合わせ（シナリオ検討）⑤ ・シナリオの3本柱を①障害福祉サービスと介護サービスの違いについて、②違いを理解した上での現在の取り組みについて、③互いに歩み寄る必要がある今後の取り組みについて、に決定。（シナリオ作成原案は基幹が担当。各担当者との確認及び内容修正を重ねて作成）	4名 ケアマネ連絡会 2名 基幹 2名
8	9月8日 9時～ 10時半	グループワークデモンストレーション打ち合わせ② ・シナリオをもとに、各立場の代表者によるデモンストレーションのリハーサルを実施。 ・双方の制度への理解と現状の取り組みへの共有が深まったことで、今後の連携方法の討議も深まった。 ⇒シナリオに追加、最終修正を完了。	9名 高齢福祉課 1名 障害福祉課 1名 地域包括支援センター1名 相談支援事業者 1名 ケアマネ連絡会 3名 基幹 2名
9	9月22日 12時～13時	研修担当者打ち合わせ⑥ ・グループワークグループ分け確認。 ・当日配布資料及び最終タイムスケジュールの確認。	2名 高齢福祉課 1名 ケアマネ連絡会 1名 基幹 1名
10	9月29日 13時～14時	最終打ち合わせ ・講師との最終打ち合わせ。 ・グループワークデモンストレーションの最終確認。 ・グループワークの進行内容について、ファシリテーターとの最終打ち合わせ。	10名 研修講師（沖倉智美氏） 高齢福祉課 1名 障害福祉課 1名 地域包括支援センター1名 相談支援事業者 1名 ケアマネ連絡会 3名 基幹 2名

3. 研修内容

① 研修開催挨拶及び研修目的等趣旨説明

今回の研修は、昨年度基幹相談支援センター主催で開催した「障害福祉サービスから介護保険へスムーズにサービス調整するために」（対象：国分寺市内指定特定相談支援事業者及び国分寺地域包括支援センター）をもとに企画検討されてきている。講師も昨年度に引き続き、沖倉智美氏に講師をお願いした経緯を説明した。

昨年度の研修を通して、情報共有のズレをなくすためにはお互いの制度理解を深めていくこと、分野ごとに使用されている専門用語への正確な理解が必要だということ、必要な支援根拠が説明できて適切に情報を引き継ぐことができること、今後の見通しをもったプランニングを共通理解としてもてる関係性が大切だということがわかった。今回の研修会では、さらに障害福祉と介護保険との共通理解を深めるために、実際のプランニングを担う立場にある相談支援専門員とケア

マネジャーとが共に互いの制度の違いや立場を理解し合いながら、共にサービスを検討していける関係性をつくり、実際の現場に活かしていくことが目的になることを説明し、研修参加者の意識の共有を図った。

② 6ヶ月間のサービス調整期間に関する説明（15分間）

＊研修資料「障害と介護の連携について」

国分寺市で障害福祉サービスから介護保険サービスへの調整期間として設けられている6ヵ月間について必要な視点を共通認識として理解することを目的として、国分寺市障害福祉課相談支援係石丸明子係長より、「高齢の障害者の現状」「介護保険と障害福祉の適用関係について」「65歳到達時のサービス調整の基本的な流れについて」等に関する説明と現状報告をいただいた。

③ ライブグループワーク（各分野の代表者によるデモンストレーション）（60分間）

前段の「65歳到達時のサービス調整の基本的な流れについて」の説明を受けて、各分野の代表者6名（障害福祉課、高齢福祉課、相談支援専門員、ケアマネジャー、地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センター）に登壇いただき、障害福祉と介護保険の連携をテーマとしたグループワークをデモンストレーションとして行った。互いの情報共有のズレをなくし、移行に伴うスムーズな調整につながる連携関係の構築への共通理解を得ることを目的とし、研修開催に向けて打ち合わせの中で検討されてきた内容をグループワークをとって見える化する形をとった。グループワークは打ち合わせの検討経過を再現する形で、①障害福祉サービスと介護サービスの違いについて、②制度の違いがある中での現在の取り組みについて、③互いに歩み寄る必要があることが見えてきている中での今後の取り組みへの提案、の3本柱での内容構成を行い、ある程度のシナリオを作成する形で準備を行った。実際の障害福祉と介護保険の連携場面でよくみられる課題を具体的な場面を用いて互いの立場からの意見交換することを通して、互いの制度への正しい理解や、必要な支援の根拠を適切に説明できることの重要性、及び制度移行後の見通しを持ったプランニングを検討できることの必要性への共通理解につなげることができた。

65歳到達時のサービス調整について、立場は違っても一人の人の生活を支える視点は同じであるという認識のもと、ケースを引き継ぐ者と引き継がれる者との関係性をつくるための考え方の土台作りを、ライブグループワークを通して行うことができた。

④ グループワーク（25分間） 6～7名×7グループ

ライブグループワークにより障害福祉と介護保険の連携に関する基礎的な情報共有を図ったうえで、各グループに分かれてのグループ討議を行った。グループワークは①ライブグループワークを見ての感想、②障害福祉と介護保険の連携に関する質問、の2つのテーマを中心に討議を行った。感想と質問を述べ合う中で、日々の実践における課題の共有やその取り組みについての意見交換を行い、それぞれの立場を理解する良い機会となったと同時に、お互いの距離感が縮まった印象を多くの参加者が持つことができたグループワークとなった。

＊グループワーク内容については別紙参照

⑤ 講師講評

講師の沖倉智美氏より、各グループワークで感じた感想と質問をもとに、質問については回答をいただきながら、全体の講評をいただいた。

今回の研修会においては、双方の制度や考え方の違いを確認していくという作業が中心になっているが、恐らく障害福祉と介護保険でそれぞれの見立てやアセスメント項目も違い、それに対する評価の視点も違う中で、それぞれが持っているアセスメントと支援への考え方を同じ机上にあげて、違いについて理解を深めながら、65歳を迎える本人への支援について確認し合う作業がより必要になることへの助言をいただいた。また、個人情報の取り扱いの難しさについての意見がグループワークでも多く見られていたことから、個人情報に対する考え方についての指摘があった。個人情報は本人の情報であることはもちろんだが、その情報を誰のために使うのかということも考えられるべきであり、プライバシー保護の大前提の中で支援関係者が情報を共有するということは必要である。どのように情報を活かすのかが大切であり、書面も含め直接担当者同士で情報共有できる支援環境が必要だという考え方が示された。

平成30年度より、法改正に基づいて共生型サービスが位置づけられるが、障害福祉サービスと介護保険サービスの双方のサービスが相乗りする仕組みができることにより、より互いの制度理解が求められていく。介護保険優先の中での障害福祉サービスの上乗せ横出しについては、自治体ごとの判断が求められていることから、国分寺において、一人ひとりの個別性をどのように捉えて支援や生活全体を組み立てていくのかを考えなければならず、65歳を迎えてどのような暮らしを送っていくのかは、相談支援専門員とケアマネジャーとが協働で取り組む必要があり、国の「我が事・丸ごと」でも示されているように、縦割りから丸ごとへの転換が求められていることへの講義があった。専門職の垣根をなくし、人が自分らしく豊かに生きるために様々な場面において各関係者が協働していく取り組みが求められていることが全体を通しての講評であった。

4. まとめ

今回の研修会により、障害福祉と介護保険の制度についてや、支援への基本的考え方の理解が双方に深まったことがアンケート結果から読み取れる。違いを理解し、双方の立場への理解を深めることができた事は、実際のプランニングを担う立場である相談支援専門員とケアマネジャーの垣根をなくすことにつながってくる。また、研修を通して顔の見える相談しやすい関係性をつくることができたとの意見も多くあったことは、実際の支援に活かされる関係性の構築にもつながり、今回の研修目的は達成されたと考えている。

アンケートの中には、今後も継続して障害分野と介護保険分野の連携研修を継続してほしいという意見が多くみられた。また、講師の沖倉智美氏からは、今後の連携研修の持ち方のヒントとして、障害分野と介護保険分野の支援者と同じ一人の人を見て、どのようなアセスメントをしてどうプランニングしていくのかを実際に行ってみるという方法への提案をいただいた。法改正により、国が掲げる地域共生社会への実現に向けた動きも高まる中で、公的福祉サービスにおける「縦割りから丸ごとへ」の転換に即した現場の支援の在り方を考え、地域共生社会に向けた取り組みを研修を通して引き続き取り組んでいく必要がある。

以上

平成 29 年 9 月 29 日開催

第 2 回相談支援スキルアップ研修会・第 2 回国分寺市ケアマネジャー連絡会

『障害福祉から介護保険へ』～情報共有のズレをなくそう～

アンケート集計

参加者： 50 名（障害福祉 11 名・介護保険 39 名）
アンケート回収： 40 名（障害福祉 6 名・介護保険 34 名）
回収率： 80%（障害福祉 54%・介護保険 87%）

1. 本日の研修はいかかでしたか？

☐とてもよかった：25 名 ☐よかった：14 名 ☐普通：1 名 ☐あまりよくなかった：0 名

〈主な意見〉

- ・ 障害から介護への移行時の基本的な流れが視覚的に理解できた。
- ・ 双方の違いや基本的な考え（理念）が理解できた。
- ・ ライブグループワークでは、移行時における課題などを具体的に障害側と介護側に分けて意見交換していたため、とてもわかりやすかった。講義形式よりよくわかった。
- ・ 生の声を聞いて自分の経験と照らし合わせて考えることができた。
- ・ 障害と介護の分野共に情報共有でき、顔つなぎもできてよい機会だった。
- ・ お互いに理解しあうことや、利用者本人が安心して暮らせるための方法を一緒に考えることが大切という事が学べた。
- ・ イメージだけでとらえていた面があったとわかった。
- ・ 高齢・障害の分野で、かたよった理解をしていた点があり、その点を見直せたのはよかった。顔を合わせられたことも含め、今後の仕事に生きると感じた。

2. 双方の制度を把握した上で、利用者の生活を切れ目なく支援するためにどのような調整が必要かを理解ができましたか？

☐よくできた：13 名 ☐できた：23 名 ☐よくできなかった：3 名
☐まったくできなかった：0 名 ☐無回答：1 名

〈主な意見〉

- ・ 制度の異なる点も含めた相互理解や本人の望む生活に対するイメージの共有が必要。
- ・ 個別性に配慮して、早期に双方が歩み寄っていくことが大事。
- ・ 制度で考える前に、人としてアセスメントをする視点が重要なのだと感じた。
- ・ 移行後も連絡を取り合えるシステムが必要。顔の見える関係と相談しあえる関係。
- ・ 半年前からの調整を活かした、早めの説明や対応が必要。行政、包括等の調整も活かしたい。
- ・ サービスの根拠や必要性を共有し、双方で制度以外の資源も含めた調整を行うことが必要。

3. 今後、実際の対応に役立てることが出来ますか？

☐できる：35名 ☐できそうにない：0名 ☐どちらでもない：4名 ☐無回答：1名

〈主な意見〉

- ・できるとよいがケースは少ない。機会があれば役立てられる。
- ・今回の学びにより互いの連携がとりやすくなった。
- ・顔が見えるようになり相談しやすくなった。苦手意識がなくなった。
- ・本人を中心に考えて支援する。
- ・アセスメントを支援者間で共有して役割分担し、年齢を超えた対応をしていきたい。
- ・フェイスシートの共有ができると良い。

〈4のみ介護保険分野関係者のみへの設問〉

4. 障害との・障害部門とより密な関係性の構築・人数バランス調整のため、定員をもうけさせていただきましたがいかがでしたか？

☐良かった：21名 ☐良くなかった：4名 ☐どちらでもない：7名 ☐無回答：2名

〈主な意見〉

- ・できれば全員参加したい。
- ・もっと障害の方の参加をお願いしたい。
- ・参加人数的には良かったが、多くの人を知る必要がある内容だと思う。第2弾、第3弾など企画してもらいたい。次回は新人ケアマネにする等の参加条件を変更するのも良い。
- ・障害ケースを持ったことのない人も参加したかったと思うが、グループワークの時に障害の相談員と一緒にグループ構成ができたのは、人数制限をした良さだと思う。

5. 今後他職種連携で研修を希望する職種などがありましたらご記入ください。

〈主な意見〉

- ・病院MSW、精神科SW、訪問看護ステーション、認知症疾患センター相談員等の医療分野関係者との連携。
- ・リハ3職種（PT、OT、ST）や看護師との連携。一人の事例を多職種でアセスメントする。
- ・生活保護ケースワーカーとの連携。
- ・障害分野との研修は継続してほしい。共生型サービスへの学びも含め、更に連携していきたい。

6. その他、今回の研修に関するご意見等ご自由にお書きください。

〈主な意見〉

- ・参加者皆の熱意が伝わって元気をもらった。協力していく姿勢に期待がもてて、励まされた。
- ・とても分かりやすくライブが展開されていたので理解できたし楽しめた内容だった。
- ・ライブの後のグループワークの構成はよかった。話し合いやすく、有意義だった。
- ・「目標」設定について障害分野と高齢分野との違いを感じた。次回はプラン作成を学びたい。
- ・移行で課題にあがるヘルプの内容・時間についても事例を用いて一緒に検討したい。